

●令和8年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和8年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、 令和7年度における取組の評価・分析を 踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
13208調布市	③学校と家庭の課題	05 その他	全国学力・学習状況調査結果において、本市は全国及び東京都の平均を上回っていたが、本市で実施した「魅力ある学校づくりアンケート調査」では、調査対象である小学校4・5・6年生の「授業が分からない」、「どちらかといえば分からない」と回答した割合が令和4年度は8.0%、令和5年度は9.0%、令和6年度は10.2%、令和7年度は8.7%であった。個別に支援を必要とする子どもが増加しているとの学校からの声があがっている中で、外部人材を活用した学習支援が必要となっている。	授業のつまずきを減らし、家庭学習の定着のため、放課後や長期休業期間中に地域人材を活用した地域未来塾の設置を促進していく。	特に小学校での授業のつまずきを減らし、中学校へつなげていきたいことから、小学校における学習支援員を確保するとともに、地域未来塾の設置を促してきた結果、学習支援員については、12月末現在で比較すると、令和6年度は275人、13、253時間、令和7年度は258人、13、285時間と、支援員数は減ったが、支援時間については32時間増加した。また、地域未来塾については、令和5年度は6校、1、802時間、令和6年度は7校、1872時間と、1校増え、支援時間は76時間増えた。令和7年度8校はであった。その結果、目標値を1%上回ることでできたので、今年度も支援時間を増加するとともに、地域未来塾設置数を増やす取り組みを行う。	「魅力ある学校づくりアンケート調査」における小学校4・5・6年生の「授業が分からない」、「どちらかといえば分からない」と回答した割合	「魅力ある学校づくりアンケート調査」における小学校4・5・6年生の「授業が分からない」、「どちらかといえば分からない」と回答した割合	9	%	8		